



(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/13
即時解禁
2012年1月17日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

IMF 財源の妥当性をめぐる理事会協議に関する クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事の声明

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、現在行われている IMF 財源の見直しの一環として実施された、財源の妥当性に関する理事会の協議を受け、以下の声明を発表した。

「本日の IMF 財源の妥当性に関する協議は、IMF がそのマנדート（責務および権限）を遂行し、世界の安定性の確保において適切かつ建設的な役割を果たす上で、十分な財源を有しているかを評価する歓迎すべき機会となった。昨年の国際通貨金融委員会を通じた加盟国からの要請、およびカンヌサミットでの 20ヶ国グループ (G20) 首脳の広い支持を背景に行われた本日の議論は、重要な一歩となった。

最大の課題は、金融危機に適切に対処することであり、多くの理事がユーロ圏の債務危機を封じ込め、全世界の加盟国をその波及効果と過度の産出高・所得の縮小から保護するため、一体となり取り組むことが喫緊の課題だと強調した。こうした状況において、理事は先日の欧州加盟国による IMF 財源への拠出コミットメントの発表を歓迎するとともに、欧州の防火壁とその他の政策が、ユーロ圏の危機に対処できるよう十分に力強いものであることが重要だと述べた。

私は、現在の世界的な経済の脆弱性及び地域の問題の打開に向け、IMF 資源を十分に確保することが重要であるとの認識を歓迎する。この目標に向かい、IMF のマネジメント及び職員は、適正なセーフガードの適用を受ける IMF 財源の増強に向けた様々なオプションを検討することになる。私は、金融危機の解決、および世界経済の安定性の確保について、理事会が合意に至ったことを歓迎する」